

I 産地づくりビジョン (新規戦略品目)

東予一円の魅力ある花木産地づくり

(花木／新居浜市、西条市、四国中央市)

東予地方局 産地戦略推進室

活動の背景

花木は労働負担が小さく収益性が高いことから、東予地域でも栽培面積が拡大している。一方で、品種によっては苗木の供給不足が問題となっている。また、導入から年数が浅いため、東予地域に適した安定栽培技術の定着や、産地としての知名度向上が求められている。

そこで、東予地域における産地拡大を目指し、安定した優良苗木供給体制構築に向けた支援、栽培技術の確立、PR活動による販売促進を行う。

到達目標（R4年実績→R9年目標）

- ・生産量：261,000本→700,000本
- ・東予版栽培指針作成数：3品目→6品目
- ・栽培面積：348a→1,100a
- ・栽培者数：33人→65人
- ・生産額：21,230千円→48,000千円

活動内容

1 安定した優良苗木供給体制の構築

- ・挿し木講習会の開催
- ・地元高校と連携した優良苗木の確保支援

2 若手生産者の技術向上支援

- ・意欲のある若手生産者による勉強会の開催
- ・「東予花木生産者ネットワーク」の設立支援

3 首都圏でのPR活動による花木販売促進

- ・大田市場内で販売促進活動の実施
- ・主要出荷先の市場にて動向調査の実施



【挿し木講習会】



【東予花木生産者ネットワーク
園地互評会】

活動の成果

1 安定した優良苗木供給体制の構築

- ・生産者の挿し木技術の習得を支援し、自家育苗による優良苗木の確保を推進
- ・各産地の苗木不足情報を取りまとめ、丹原高校と連携して苗木（約1,000本）を確保した。

2 若手生産者の技術向上支援

- ・花木の栽培について相互研さんでできるネットワークを発足
→若手7人が参加し、園地互評会など計4回の研修会を開催
生産者同士の意見交換によるレベルアップを支援
- ・優良個体の増殖を目指した挿し木技術の実証
→発根が困難な品種の増殖のため、新たな挿し木方法を試験

3 首都圏でのPR活動による花木販売促進

- ・花木展示とチラシ配布による産地の魅力発信
→新規顧客の獲得と産地の知名度向上を促進
- ・市場関係者や消費者に評価や需要を聞き取り
→商材の改善点や課題を抽出し、今後の販売へ反映



【市場での販売促進活動】

今後の活動

- 新規栽培者を対象とした栽培講習会を開催
- 地元高校と生産者と連携し、需要喚起を目的に市民を対象としたアレンジメント講習会を開催
- 東予版栽培指針の作成に向けて、生育状況の把握と気候変動対策の試験を実施

業務ニーズに応じた多様な地域特産品が供給できる産地づくり

(イタリア野菜、メロン、媛かぐや/今治市、上島町)

今治支局 産地戦略推進室

活動の背景

新型コロナウイルスの影響や輸送コストの高騰等から地産地消の取組みがこれまで以上に注目されており、中核となる直売所を中心に、飲食店や食品加工企業等の実需者から要望を受け、地域特産品目の供給が始まっている。一方、これら地域特産品目については安定した供給体制が整っていない等の理由から取扱量が伸び悩んでいる。

到達目標 (R4年実績→R9年目標)

- ・イタリア野菜類安定供給品目数：(一)→2品目
- ・イタリア野菜類安定供給品目生産量：(一)→3.5t
- ・メロン単収：2.0t/10a→3.0t/10a
- ・生産者数：6人→20人
- ・生産額：300万円→800万円
- ・「媛かぐや」単収：1.5t/10a→2.2t/10a

活動内容

1 イタリア野菜類

- ・単収向上を目指したバターナッツの株間の検討
- ・イタリア野菜のPRイベント(デジタルスタンプラリー)を実施し、今治市内の飲食店でイタリア野菜を使ったメニューを提供
- ・マーケットインを目指した生産販売会議の開催やサンプル提供による実需者の掘起し活動
- ・生産者・実需者交流会を開催し、今後の取組み等について意見交換を実施

2 メロン

- ・関係機関とスイーツを開発し、JA直売所にてスイーツ・青果のPRイベントを開催

3 媛かぐや

- ・管内生産者の栽培に適した種芋の貯蔵条件を把握するため、異なる貯蔵方法を比較・検討

活動の成果

1 イタリア野菜類

- ・株間70、80cmで目安となる収量10kg/株を達成するとともに、指針作成の基礎データを取得した。
- ・約1か月間開催したPRイベントには113人が参加
→今治のイタリア野菜の認知度が向上
- ・生産段階では出荷規格の意識統一が図れるとともに、新たな需要を確保することができ、販売向上につながった。
- ・交流会での情報交換や新品目の試食等を通して、新たな取引や次年度栽培計画の策定材料を得た。

2 メロン

- ・対面での試食・販売を通して今治産メロンの品種の特性や食味等を多くの人に認知してもらった。
- ・直売所からの評価も高く継続してイベントを実施する事が決定

3 媛かぐや

- ・種芋の掘取りなしでの畝内貯蔵+腋芽の発芽(頂芽なし)区が収量及び子芋・孫芋数が多いことが把握され、次年度の普及指導材料となった。



【イベント周知用Webバナー】
(イタリア野菜類)



【PRイベント実施状況】
(メロン)



【種芋貯蔵の比較・実証】
(媛かぐや)

今後の活動

- 引き続き、販促活動としてイタリア野菜のデジタルスタンプラリー及びメロンのPRイベントを開催、地域特産品目の安定生産に向けたバターナッツ・メロンの栽培方法などの比較・実証に取り組む。
- 媛かぐやでは、貯蔵別種芋の収量比較の実施、個別巡回指導、実需者との意見交流会を開催する。

中予地域における花き産地の維持・発展

(さくらひめ、シンテッポウユリ／松山市、伊予市、東温市、松前町)

中予地方局 産地戦略推進室

活動の背景

さくらひめは、生産コストの増加や需要期の出荷が困難であることが問題となっているため、夏季自家育苗技術の確立と普及により、種苗コスト低減と需要期の安定出荷体制の構築を進める。

シンテッポウユリは、近年の夏季高温により、花芽がついた茎が伸びなかつたり、株の上部で葉が密集する等の問題が発生しているため、定植時期の検討等を行い、安定的な生産を目指す。

到達目標 (R4年実績→R9年目標)

【さくらひめ】夏季自家育苗取組生産者数：0人→5人、生産額：1,100万円→1,300万円

【シンテッポウユリ】単収：1.5→2.3万本/10a・栽培面積：1.6→1.7ha・生産額：2,300→3,900万円

活動内容

1 さくらひめ

(1) 夏季の自家育苗技術の確立・普及

- ・夏季自家育苗技術の実証ほを設置（切り花3か所、鉢物2か所）
- ・切り花の需要期出荷・安定した連続出荷を目指し定植時期を検討

(2) 需給のマッチングによる適時出荷体制の確立

- ・市場関係者や生産者等を交えた検討会の開催（年2回）
- ・認知度向上及び新たな需要の確保に向けたPR活動を実施
→松山市内量販店で、伊予農業高等学校の生徒が制作したアレンジメント作品を展示し、来場者による人気投票を実施

2 シンテッポウユリ

- ・最適な定植時期を検討するための実証ほを設置（1か所）



【自家苗の生育状況】

活動の成果

1 さくらひめ

(1) 夏季の自家育苗技術の確立・普及

- ・自家育苗により、種苗コストを約70%低減しながら、卒入学式等の需要期に出荷可能となることを実証
→「さくらひめ」夏季自家育苗マニュアル（中予版）」を作成
→夏季自家育苗に取組む生産者が5人に増加

- ・切り花では購入苗と自家苗を組み合わせた定植時期の分散による長期連続出荷を実現

(2) 需給のマッチングによる適時出荷体制の確立

- ・市場関係者や生産者とともに市場ニーズへの対応等について協議
→高需要期の出荷量確保や連続出荷の重要性について共有
- ・アレンジメント作品の展示に322人が来場、利用場面の発信等により購買意欲を喚起

2 シンテッポウユリ

- ・令和7年度は、定植時期の違いによる採花率への影響は確認されなかった一方、高温による採花率低下のリスクを再確認
→定植時期や高温対策技術の検討に向けた意識を醸成



【現地検討会】



【アレンジメント作品展示】

今後の活動

○さくらひめは、作成したマニュアルを活用して夏季自家育苗技術を普及するとともに、購入苗との組合せによる需要期出荷と連続した安定生産を支援する。

○シンテッポウユリは、引き続き定植時期や高温の影響を軽減する栽培技術等について検討する。

媛小春の安定生産技術の確立と直販用品目への育成

(媛小春／宇和島市、愛南町)

南予地方局 産地戦略推進室

活動の背景

県育成品種である「媛小春」は、黄色い外観と爽やかな甘さで、直売所やネット販売等で根強い人気がある。南予地域中心に栽培面積が拡大している一方、樹勢が強く安定生産が難しい一面もあることから、生産技術の確立に向けた実証等に取り組んでいる。そこで、生産者等が加入する協議会を組織し、栽培上の課題に対する技術対策とさらなる認知度向上に向けたPR活動を実施する。

到達目標（R4年実績→R9年目標）

- ・単収：1.2t/10a→2.5t/10a
- ・販売額：100万円→1,800万円
- ・栽培農家数：5人→60人
- ・栽培面積：0.2ha→7.0ha

活動内容

1 安定着果技術の確立

- ・夏枝を結果母枝として有効活用するため、実証ほにて着花状況及び夏秋梢発生状況を調査

2 新規栽培者の獲得

- ・「媛小春」生産者等を対象とした研修会を開催し、実証結果や先進農家技術の情報共有を実施

3 認知度向上対策

- ・県内企業と「媛小春」の加工品開発に向けた協議を実施
- ・県内外でのイベントにて、試食販売を通じたPR活動を実施



【夏秋梢への着果状況】

活動の成果

1 安定着果技術の確立

- ・実証の結果、夏秋梢への着花・結実が認められ、結果母枝としての有効性を確認
→果実品質についても良好であり、連年安定生産技術確立に向け、継続調査を実施予定

2 新規栽培者の獲得

- ・研修会には、栽培に興味を持つ生産者も多数参加
→生産者数は18名（R6）から40名（R7）に増加
- ・研究機関や先進農家の知見を取り入れた樹勢管理技術を確立
→研修会にて実演・指導し、適正な栽培管理方法を周知

3 認知度向上対策

- ・県内企業と協議を進め、「媛小春ゼリー」の販売が決定
- ・昨年度から「媛小春」のPR販売とアンケート調査を実施
→県内の認知度向上が認められた。



【先進農家と生育管理について共有】



【東京（旬彩館）でのPR販売】

今後の活動

- 樹勢抑制を目的に導入が進む「わい性台木」の生育促進技術確立に向けた実証試験の検討
- 実証結果を反映した「栽培マニュアル」の策定、新規栽培者への巡回指導
- 増産に伴い発生する規格外果実の有効活用に向け、「媛小春ゼリー」に次ぐ新たな加工品開発の検討

新たなさといも産地の育成と生産拡大

(さといも／西予市)

八幡浜支局 産地戦略推進室

活動の背景

西予市では米価の下落対策としてさといも（愛媛農試V2号）が導入され、農家の所得向上と新たな産地化が期待されている。栽培者数や栽培面積の急増に伴い、基本管理の徹底のため、関係機関と連携して全期マルチ栽培技術等の既存技術の早期普及を図り、早期産地化を目指す。

到達目標（R4年実績→R9年目標）

- ・単収：1.3t/10a→2.3t/10a
- ・生産量：33t→230t
- ・単収4tモデル農家数：0人→2人
- ・栽培面積：2.6ha→10ha
- ・生産額：570万円→4,600万円

活動内容

1 既存技術の早期普及

- ・新規栽培者を中心に生育状況を調査（15か所）
- ・個別巡回による基本管理の徹底を指導
- ・今後の栽培管理や病害虫等の栽培講習会の開催（年5回）

2 省力化技術の検討・実証

- ・自動給水装置による作業時間の省力化を検討
- ・機械化体系の普及に向けた機械の導入支援

3 人・産地の育成

- ・新規栽培者の掘起し



【新規栽培者ほ場での掘取り調査】

活動の成果

1 既存技術の早期普及

- ・基本管理の徹底や重要な栽培技術を周知
→水が全体に行き渡るように水の通り道を作る等、栽培管理の改善に向けた自主的な取組みが見られた。
- ・ほ場毎に生育調査結果をまとめ、栽培状況を可視化することで栽培管理意欲が向上
→単収：1.9t/10a（前年比156%）、生産量：65t（前年比160%）、生産額：1,797万円（前年比133%）

2 省力化技術の検討・実証

- ・自動給水装置によって遠隔での水位確認が可能となり、慣行と比べて3割の省力化を実現
- ・補助事業の活用により、掘取機やマルチスプレーヤー等を導入

3 人・産地の育成

- ・JAまつりで栽培促進・知名度向上のための試食・PRを実施併せて、アンケート調査を行い、栽培に興味を示した農家を中心に、さといも栽培を提案 →生産者が13人増加



【自動給水装置の現地実証】



【JAまつりでの栽培意向調査】

今後の活動

- 米の産地として大量に排出される未利用資源のもみ殻を有効活用した土壌改良試験の実施
- 水管理省力化技術の実証を継続
- さといも産地の復興を目指し、点滴かん水実証による持続的な産地発展の実現